

田代産コシヒカリを 学校給食に使用します。

教育課（教育総務チーム）

電話 0994-22-0517

える、話が出来る地元生産者」が生産した安心・安全な食材を使用し、給食を通じて子供たちが食の大切さ、地域の自然や産業に関する理解を深めるとともに、生産者や食への感謝の気持ちを育むことを目的として、平成21年度から学校給食に地産地消の取り組みを導入する計画です。

今回、来年度からの実施に向けた試験運用として、9月の1か月間、学校給食に田代産コシヒカリを使用しております。また、9月5日には、生産者と児童の交流給食を大根占小学校3年生の給食の時間に実施しました。交流給食は子どもたちが直接生産者と会話をすることによって、より効果的に食育を推進することを目的に実施し、生産者を代表して田代稲作部会長猪鹿倉昭雄さんと副会長樋渡俊信さんが参加しました。田代の稲作についての講話があったほか、給食センターの小島栄養教諭からは当日の献立や米の栄養についての講話があり、その後一緒に給食を食べました。

近年、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・瘦身傾向など、子供たちの健康を取り巻く問題が深刻化しています。そこで、平成17年に「食育基本法」が制定され、子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、家庭はもとより学校での積極的な食育の取り組みが重要となっています。

町内の学校においては、給食センターの栄養教諭を中心とした給食時間の食育指導や、授業での農作物の栽培・収穫のほか、魚食普及教室を実施するなどの「食に関する教育」を実施しています。

今後、より一層食育を推進するため、学校給食に「顔が見

る、話が出来る地元生産者」が生産した安心・安全な食材を使用し、給食を通じて子供たちが食の大切さ、地域の自然や産業に関する理解を深めるとともに、生産者や食への感謝の気持ちを育むことを目的として、平成21年度から学校給食に地産地消の取り組みを導入する計画です。

今回、来年度からの実施に向けた試験運用として、9月の1か月間、学校給食に田代産コシヒカリを使用しております。また、9月5日には、生産者と児童の交流給食を大根占小学校3年生の給食の時間に実施しました。交流給食は子どもたちが直接生産者と会話をすることによって、より効果的に食育を推進することを目的に実施し、生産者を代表して田代稲作部会長猪鹿倉昭雄さんと副会長樋渡俊信さんが参加しました。田代の稲作についての講話があったほか、給食センターの小島栄養教諭からは当日の献立や米の栄養についての講話があり、その後一緒に給食を食べました。

子ども達は、新米を美味しくうにほおぼりながら、猪鹿倉さん、樋渡さんの貴重な話に耳を傾けていました。お腹も耳も大満足の様子でした。



お米について説明する小島栄養教諭

児童を代表して小川春香さんが「皆さんが一生懸命作ってくださった給食を毎日美味しく食べています。いつもありがとうございます。どうぞよろしくお願いします。」とお礼を言うこと小島栄養教諭は嬉しそうに微笑んでいました。

今後は、来年の1月から3月にかけて試験的に町内産野菜を給食に使用し、平成21年度から本格的に地産地消の取り組みを学校給食に導入していきます。

食育とは、国民一人一人が、生涯を通じて健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習等の取り組みを指します。

トワイライト 2008 in 霧島

教育課（生涯学習チーム）

電話 0994-22-0517



8月25日から28日にかけて、霧島市の霧島自然ふれあいセンターを中心に、町内の小中学生23名が参加して青少年育成事業「トワイライト2008」を実施しました。

乗馬・韓国岳登山・野外炊飯等の自然体験活動・都市部の生活を学ぶ鹿児島市内探索等、いろいろな活動を異年齢集団で実施することで、集団生活のルールやお互いを思いやる心の大切さ等を学ぶとともに、夏休み最後の思い出を作ることができました。

この経験を今後の生活に活かしていただきたいと思います。